

## 令和7年度 和歌山市地域福祉計画推進協議会

### 議事要旨

<日 時>令和8年2月9日(月) 13:30~15:15

<場 所>和歌山市役所 14階 大会議室

#### 1 開会

##### ・福祉局長挨拶

昨年度は地域福祉計画の改定にあたり、皆様から多くの貴重なご意見やご助言をいただき、無事に第4次計画から第5次計画へと、改定を終えることができた。本年度は、改定した計画をもとに、具体的な取り組みを着実に進めていく最初の年。また、令和7年4月より、新たに6名の委員の方々を委嘱させていただいた。本協議会では、今後の具体的な取り組みや推進体制について意見交換をしていただき、計画の実行性を高めていきたい。引き続き忌憚のないご意見を賜りますようお願いしたい。

##### ・委員の紹介

和歌山市身体障害者連盟 会長 畠中 常男様

和歌山市障害児者父母の会 会長 岩橋 正悟様

和歌山大学 経済学部 教授 金川 めぐみ様

和歌山市老人クラブ連合会 会長 酒井 美智子様

和歌山県中央児童相談所 所長 鈴木 玲様

和歌山市小学校長会(和歌山市立 藤戸台小学校長) 辻本 和孝様

和歌山市婦人団体連絡協議会 副会長 土橋 みや子様

和歌山市民生委員・児童委員協議会 会長 中嶋 滋様

和歌山市人権委員会 副会長 中野 和夫様

和歌山市老人福祉施設協議会 会長 中谷 幸子様

和歌山市医師会 会長 野村 康晴様

和歌山市自治会連絡協議会 副会長 前島 五十昭様

和歌山市社会福祉協議会 会長 宮本 佳子様

部落解放同盟 和歌山市ブロック連絡協議会 芦原支部副支部長 山本 昌代様

公募委員 吉田 伸一様

##### ・欠席委員

和歌山市ボランティア連絡協議会 会長、庵田 勤子様

##### ・会長・副会長の選出

会長：和歌山大学 経済学部 教授 金川 めぐみ様

副会長：和歌山市老人福祉施設協議会 会長 中谷 幸子様

## ・会長挨拶

この会議は、第5次の地域福祉計画の進捗管理をしていく。特に委員の皆様のそれぞれの見地から、和歌山市に関わる皆さんに生の声、実感のある声で、様々な角度から、ご見識の上、ご意見をいただきたいというのが、この会の趣旨。いただいたご意見は、和歌山市の方で精査をさせていただいて、次の行政施策にいかしていく。

第5次和歌山市地域福祉計画は、社会福祉法で定められた福祉政策計画。子ども子育ての計画、障害者計画といった、様々な福祉計画は個別にあるが、それらの上位計画になる。和歌山市に住む市民、様々な立場にあるいろいろな属性の人が普段の暮らしの幸せを実現できるために、個別の計画を超えて総合的に考えていくというのが、和歌山市の地域福祉計画の対応ということになる。和歌山市として地域福祉に力を入れていく事項を先導的に取り組む事項として、一定程度定めており、今回はそれを中心にご議論をいただくが、地域福祉に関することは非常に幅広く、先導的事項ではない項目に関しても、ぜひ、様々な角度からご意見いただきたい。

最近、地域福祉はすごく重要性が増しており、国の方でも包括的支援という言い方をし、すべての人を包み込んで総合的に支援していくというイメージで、そういったようなこともトレンドになっており、ぜひ興味を持っていただき、ご意見をお願いできればと思う。

なお、議題が終了した後に、その他事項で、一言ずつマイクをまわして委員の皆様から何かご自身の分野から、ご意見いただきたい。その時にでも、いろいろお話をいただきたい。

## 2 議事

### 【事務局】

#### ・次の資料について事務局から説明

##### (1) 第5次和歌山市地域福祉計画の進捗管理について

資料1 第5次和歌山市地域福祉計画について

資料2 第5次和歌山市地域福祉計画の推進方法について

資料3 地域福祉計画の指標

資料4 「実施プラン」の実施状況と課題について

### 【議長】

ご意見、ご質問お受けをしますので、発言される方は挙手をしてお名前述べて、発言をお願いしたい。

私の方から重層的支援体制整備事業の生活困窮者自立支援事業について。令和6年度の実績を見てみると、こどもの学習・生活支援事業の人数が9人というのが、この自治体の規模に比べたらすごく小粒だなという気がする。生活困窮者に関しては子どもの貧困の連鎖の観点から、特に中学から高校に進学をする子どもたちに対する学習支援はすごく大事。和歌山県下、和歌山市より人口が、3分の1程度しかない市町村でもこの事業を30人規模ぐらいでやっているの、9人の根拠と、どういう関与の仕方をしているのかお伺いをしたい。

**【生活支援第2課】**

こどもの学習・生活支援事業につきまして、一応15人ということを目標に、募集の周知を行っており、応募された方について、すべて対応させていただいている状況で、この人数となっております。

**【議長】**

これは、対象とか周知方法はかなり限定されているんですか。そもそもあまりきていない理由ですが。

**【生活支援第2課】**

特に限定はしておりません。生活保護受給家庭の方につきましては、ケースワーカーを通じて、進めさせていただいているところなんですけれども、実際申込が及ばずということになっています。

**【議長】**

他市町村の状況を聞いていると、始めて何年目かのところは、募集人数以上にきて、断らないといけないう状態で非常にリピート率も高いと聞いている。そもそも、募集人数に達しないというところは何か効果的な周知方法があるのではないかと、対象者に関しての見直しであるとか、より効果的な。もう少し、ニーズはあると思うのでそのあたりちょっとぜひお願いしたい。

**【生活支援第2課】**

はい、わかりました。令和7年度につきましては、12月末現在で、一応11人ということで、昨年度よりは、多い人数で実施させていただいております。今後につきましても検討させていただきたいと思っております。

**【議長】**

はい。ぜひ。これ広がっていけばあと、やり方によっては、こどもの学習・生活支援事業は、子どもの学習を通じて、親にアプローチでき、家庭支援に繋がるので、そういったところも活用していただけたらいいのかなと思う。お子さんの学習状況とかの関与をするときに、うまくご家庭に入れますので、そういうところもこどもの学習・生活支援は効果的だと言われている。他、お気づきの点、何かございますか。

**【委員】**

2点ほど。7ページの再犯防止を目的とした啓発活動の推進というところですが、啓発ってどんな形でしていくのかが見えていないところがある。再犯をされる方は、馴染めないだけではなくて、いろんな社会的な要因が大きいと言われている。「ケーキを切れない子供たち」というような題名の本があったか

と思うが、ホールケーキを人数分に、どういうふうに切ったらいいかわからない。それをずっとフォローしているドクターによると、軽度の知的障害があると。そんな人たちが、再犯が多いという。小さい頃から丁寧に子育てや社会環境を整えていくことを考えないと、絵に描いた餅のように、啓発活動をしていても、再犯は防止できないし、そのことを住民の方にも理解をしてもらいにくいところではないか。再犯をすることのフォローはもっと真剣に考えないと、市役所や行政の中でちょっとできるものではない。その人たちを丁寧に育て上げることが大事かなと思うので、いろんなところで、ただライトアップをして啓発をするだけではない取り組みが、今後必要になってくる。都会ではなくて田舎だと、反対に余計に暮らしにくい人たちを作っていくんじゃないかというふうにも思う。

あと災害について。私は、平時からの繋がりっていうことに尽きると思う。災害が起こってからではなく、普段の生活の中で、どんなふうに地域で支え合いをしているかということが一番大事だと思う。

2025年の7月30日に津波がくると、けっこう和歌山も早く、市民も早い段階で取り組んだと思う。たくさんの住民が体育館に避難したと聞いた。このときのみんなの行動の心理状態や、その状況、またどんなふうに避難所が運営されていたか。この7月30日の避難は、市民も行動したし、市役所も早くから行動した。その中で何が課題で、何を今早くから変えていくことできるのかを、きちんと、私たちにも知らせてもらってみんなで考える機会を今後作ってもらえたらと思う。

#### 【人権同和施策課】

再犯防止につきまして、令和7年度から地域福祉計画の中に掲載させていただいている。今後、どういうふうに啓発をしていくか、今はまず、罪を犯した人たちの更生について、国民みんなが理解を深めていくという形で、啓発運動をしているわけなんですけど、社会的、弱者の方、そういう方が犯罪をおこすというデータが多いっていうのは、私どもも把握している。そういう方々に対して、刑務所とかの中で、特別な取り組みをやっているという話も聞いておりますが、今度は社会へ戻ってきた中で、どういうことをしていけるのか、どういうふうにして皆さんに協力を求めていくことができるのか、それもまた啓発の一つの課題であると思っているので、今後の検討課題として考えていきたいと思っている。

#### 【高齢者・地域福祉課長】

災害の件ですが、本市では、災害時における避難支援体制の整備というのを行ってまして、災害時に、自力避難が困難で、支援を必要とする方の名簿を、国の方で作成が義務づけられているところ。この名簿登録者で、外部提供に同意された方について、平時から地域の繋がりというのが非常に大事だと思いますので、自治会、民生委員さん、消防団などの方に名簿をご提供して、災害に備え体制の整備に取り組んでいるところ。令和6年度からは、個別の避難計画の作成を進めているところで、引き続き支援体制の整備を進めていきたいと思っている。

#### 【委員】

避難行動要支援者名簿の作成及び支援体制の推進のところですよ。3.11の災害が起きるまでは、各自自治会において隣近所で助けあうという名簿を作っていたが、3.11の災害が起きてから、自分の命は自

分で守れと、まず自分が逃げて自分の命を助けて、それから考える、ということで、そういう体制ができていたのが、なくなっている状態。最近は、個人情報保護法とか、いろんな問題があって要支援者の名簿の作成は、うやむやになっている状態です。今後の方向性として、自治会が作業の主体になると思うので、もっと自治会へ働きかけていただいて、今後の方針などご説明いただくなり、ご指導いただけたらと思う。いまのところは、そんな名簿はあるけれど、誰がどうなってるのか調べようとする自治会長もおりません。だからそれをもうちょっと下へおろしていただけたらと思う。

#### 【高齢者・地域福祉課】

災害は、本当に明日来るかもわからない喫緊の課題ですので早急にこちらの方でも考えていきたいと思えます。

#### 【委員】

避難行動支援者名簿というのは、民生委員、自治会長、消防ももっている。ただ名簿を持っているが、その名簿を持ってどのように行動するのが大事。各地区に防災組織はあり、名簿もあるが活動してないところが多くあると思う。大体、連合自治会が主体に、各種団体の役員さんが連なって名簿は作るが、高齢者の方が多い。しかし、具体的に活動するのは若い人になるので、実際に、若い人が動けるようにして、防災組織を作ることが大事。

また、私どもの地区は、行政・消防に出前講座をお願いしている。発災の初動はどうするのか、初日の数時間、2日目、3日目はどうするのか、我々地域でどのように活動したらいいかを、そこを知りたいと。消防の方も協力していただいて、初動っていうことをものすごく勉強している。災害が起こったら、うちの地区はどうするか、1時間後、3時間後にこんなになっているかなっていうことは、勉強していくほどにわかってくる。

ところが、名簿を持っている地域の人に聞きましたら、避難名簿のところへ助けに行くと言う。誰と行くのか聞いたら、いや1人でも行くと言いますが、下手に動いたら、2次災害になりかねない。民生委員は責任感の強い人多く、助けに行かなあかん、と思う人が多い。行って安全でなかったら、行かしたらあかん、危ないところでいく状況を作ったらいかんということも考えていかないと。ただ名簿を渡してるからええやろっていうんじゃないで、その辺の話を決めていただきたいところです。

#### 【高齢者・地域福祉課】

貴重なご意見ありがとうございます。まず一番大事になってくるのは、地域の中で、支援が必要な人は、高齢で介護が必要な方だけでなく、障害をお持ちの方など、いろいろな方がいらっしやると思えます。支援が必要な方が地域にどれだけいるのかを把握した上で、民生委員さんにご負担をいただいているのは十分承知していますが、まず、その情報を提供させていただいて、民生委員さんの安全確保が大前提になりますが、その上で、先ほど申しました個別避難計画の作成に基づいて行うことだと思えます。そのあとの防災訓練とか、そういうのを通じて初動体制を考えた上で、運用体制を構築していくことが大事であると思えます。

**【議長】**

はい。実際はかなりちょっと差がある、相当重要なご指摘だったので、ちゃんと生きるような形でのものをお願いしたいと思う。実際に使えるようなやり方をお願いしたい。

では議題の1は終了しまして、議題の2ですが、事務局から何かありますか。

**【事務局】**

特にありません。

**【議長】**

では委員さんにマイクをまわしていきますので、それぞれのお立場から、何か一言ご発言いただければ、資料の中身でも結構ですし、日ごろ思われていることでも結構です。

**【委員】**

今、和歌山市の人口って、35万を切ったんですよ。随分、産業もなくなってしまった。人数が少なくなると、当然、税収も少なくなる。にもかかわらず、たくさんの事業や、やんなあかんことがある。和歌山市は、込み入ったところから、地方の方へ行くと、人口もまばらで、交通機関も十分ではなくて、バスがなくなるとか、バスの時間が少なくなっている。だから、こういう福祉や行政サービスを充実させていくには、町を小さくコンパクトシティにしていかなないと行き渡らないと思う。住んでる住民に皆、福祉や公共交通など、社会インフラが行き渡るように。

私ら身体障害者で移動するのも大変困っている。タクシーも最近使いにくい。他の公共交通機関を使えと言われても、これも非常にダイアグラムが粗かったりする。車がなかったら、生きていかれへん和歌山市なんです。ここでの計画って言うのは、非常に素晴らしいと思うが、それをあまねく行き渡らせるということになれば、ちょっと総合的に根本的に考えなければと思う。

**【委員】**

福祉計画を立てて、それをどう進めるか、今後やっていかないとといけないことはその通りだとまず思っている。あわせて、一番初めの話にもあった福祉とは何かということは本当にとっても大きなテーマだと思う。私も最近、障害福祉のことを、中学校や小学校で授業をさせていただく際、とても伝えることが難しく、どのように伝えたら皆わかっただけののかなということを思っている。この福祉計画のこのような内容を、学生さんたちお話をするとき、こういうのがあるんだよ、とお話していくと、何となくイメージできるのかなと思う。

中学校・小学校の学生さんの中で、普通学校の中でも今、障害のある方たちは、とても増えている。グレーゾーンの方もすごく増えている。そのいろいろな課題がある中で、これからこの福祉ということ、

どのように地域の中に入れていくか、もっと、知っていくかというところは、本当に課題であると思っていますので、私もできる立場から、いろいろなところからアプローチして行って、和歌山県の地域福祉がしっかり進んでいくように進めていきたいと思う。

#### 【委員】

お話を聞きしながら、自分の老人クラブでは一体何ができるのかなって考えたとき、今老人クラブに求められていることは、人と人の繋がりを大事にするってということと、私たちは思っている。その人と人の繋がりを大切にするというのを活動の場を通じて、深められると思っている。私たちは、どうすれば皆が楽しい気分になれるのか。どうすれば皆が、幸せな気分で行われるのか、そういったことを大切にしながら、老人クラブの運営を進めたいと思い、今取り組んでいる。

この調査結果を見ても、楽しみ度というのか、そういうのがあまり多くないと思う。じゃあ、私たちの老人クラブの活動の場が楽しい集いの場となるように、お互いに喜びを分かち合ったり、与え合ったりできる場となるよう、取り組んでいることが大事だと思いながらお話を伺っていた。

でもそのためには、たくさんの知識を持たないといけないということも今回わかった。この会に参加させていただいて、市としてはこんな福祉のことをやってくださっていたか。それも知らずに、会長という名で来たのがとても恥ずかしくて、きっちりした知識を持って、自分たちの会合に臨んで、具体的な提案をしながら、楽しい老人クラブになるようにすることが、少しでも市の運営に役立つのかなと思いつながら聞かせていただいた。

#### 【委員】

再犯防止のお話があったが、犯罪を侵されて、一定刑期終えて、社会に出てくると。ここで、事業の中で、周知啓発ということなんですけども、ターゲットをどこにして、どういう目的で周知を行っているのか。そういった方々っていうのは、おそらく、一般の生活に戻ったとしても、世間の批判というのか、やはり冷たい目で見られ、生きづらさをすごく抱えてくるかなと思う。そういった方々を、社会が温かく支えていくんだという意味合いの啓発なのか。そうでなければ、そういう社会の雰囲気でないで、そういう人たちはなかなか救われないだろうなって、また再犯再発を起こしてしまうだろうなと感じたのが1つ。

もう1つ、子育ての関係で、4ページの地域子育て支援拠点施設ですが、成果指標なんでしょうか。この10施設開設とか書いてるんですけども。この事業で本当に救われている人がたくさんいるのかなと思う。指標的に、こんなに役に立っているという成果が見えるような、書き方ができないかなと思った。県でもそうですが、計画を定めて、それに基づいて10施設作る。達成した、そこで終わったような気がして。それでその指標の立て方も、そこからどれだけ波及して、どれだけ人の役に立っているかということを示せるような指標があればと感じた。それはなかなか難しいと思うが。

#### 【議長】

指標については、第5次ではこういう大きな指標を立てて、それで個別でも、指標は立てておられると思う、アウトプットなりアウトカムなり。ただ、それが出てくるときにちょっとうまく伝わっていないよ

うなので、そういったようなところも工夫して、進捗状況管理をしていただければと思う。

#### 【委員】

小学校の現場からの目線で見ると、学校としても、学校・保護者・地域、この3つの連携ってというのは、常に考えて進めているところ。特に地域との連携という部分で、表として見せていただくと、かなりのことをしていただいているのは、とてもありがたいと思っている。ただ、地域の方や現場の子どもたちのニーズとして、本当に必要なこと、そろそろ取り組みを解消してもいいもの、見直していただくとありがたい。具体的にどれというのは、わからないが、そういうニーズ調査も、必要なかというのが1つと。

もう1つは、最近、教育・福祉連携で子どもの居場所として、新たにいろいろな施設が建っている。それはとてもありがたい。もう1つは子ども食堂。子供たちの食べることがなかなかしんどいというご家庭の助けになっている。もっと言うと、今、和歌山市の学校では、給食が無償化されている。これはもう本当に助かっている。

あと、災害の件で関係しているとは思いますが、体育館の空調設備。これは学校としても、とてもありがたい。こういうふう給食無償化や、体育館設備など、子どもたちに関係する特に教育に関する取り組みとして、そういうところにお金使っていただくとありがたいと思う。

今後も、市としても、教育にしっかりお金をつぎ込んでいただくと、和歌山市で生まれ育った子どもたちが、魅力ある和歌山市に残って、和歌山市を支えているというような、そんな仕組みができるのもいいなと思う。

それは、やはり教育にお金をかけていただくというのが大事なのかなと私は思っている。それと、子どもたちを育てている保護者の方の貧困などの支援というのも、大事。保護者が安定してくると、子どもたちも安定する。今後も取り組み続けていただければありがたいと思う。

#### 【委員】

和歌山市婦人団体連絡協議会の代表で来ている。市婦連とって42地区にありましたが、各地区から、今市婦連に参加している地区がだんだん少なくなった。私たちも女性学級ということで、いろいろな勉強をしたり、リーダー研修でいろんなことを学んでるので、ほとんどのことに参加している。

小学校にはミシンのボランティアとかいろんな活動に参加させてもらっている。また、シニアエクササイズ資格を持っている方もたくさんいるので、各地区で運動もしている。防災のことは、私たちはまず携帯のLINEグループで連絡を取り合って、無事を確認したり、この間の地震があったときも、逃げないで家にいる方がいいとか、みんなに確認したりしている。

これからもこういった福祉の勉強をさせてもらい、また、楽しい日々の暮らし、地域の人との繋がり、それを大事にもっと活躍していきたいと思います。

#### 【委員】

私は特別養護老人ホームのグループの代表をさせていただいている。最近感じるのは、働いてくれる人達がすごく少なくなってきたということで、YMCAなど、介護人材を育てる学校がもうほとん

ど人員がいないと。外国から連れてきて、その授業料を各施設がもっている。

そのような中で、介護できたわけじゃないといって途中で帰られてしまったとしても、その分の費用は施設がもつと、一筆書かされている。そのように、人材を育てても、ちょっと難しいのではないかと、最近つくづく感じている。外国人なんていないじゃないか、とこの間の選挙でも話になりましたが、実際のところ外国人に助けられている施設ばかりです。

技能実習というシステムできていると5年間はいてくれるが、その子たちが、夜勤をやってくれている。今、男女同等に働くといいますが、やはり女性は、どうしてもお子さんがいらっしゃる、夜勤ができない。結局は男性の力に頼らざるをえない。男性にやっていただくか、外国人にやってもらうかの選択肢しかなくなってきているので、人口が減っている中で、利用者さん3人に対して職員1人必要だというシステムがきまっていて、3対1という基準が足枷になっている。それで、なかなか人が集まらないのが、今の現場になっている。

また、リタイヤした人が入ってきてくれて、高齢者の話し相手をしてもらっていましたが、この人が、1週間ぐらいで辞めてしまった。どうして、と聞くと、同じことばかり言われて頭が狂ってくると言われた。でもそれは、もう知っていることで入ってきたんじゃないんですかということなんですよ。

だからやっぱり小さいときから、福祉に接していない人っていうのはそういうことになっちゃうのかなとも思ったりする。私たちの時代には、道徳という授業があって、その時に福祉についてもかなり教え込まれたような気がするが、今その道徳の時間もないという教育現場だと聞いているので、やはり子どものところから、福祉に関しては、きちんと教育を入れていくっていうのは、皆様方のお話聞いていても、すごく私たちにも影響があると感じている。

#### 【委員】

シニアエクササイズの会を作ったのが平成23年。今、人数は少なくなり、50名ほど。コロナ前までは70、80名。その5年前の平成18年には歩こう会を作りました。

見守り隊を作ったときに、できた効果というのが、自治会、各種団体との垣根がなくなった。どこの地区でも各それぞれの会の垣根があると思う。子ども見守り隊で垣根がなくなった。そしてエクササイズをやったときには、今度は皆さんの繋がりがよくなったと、ものすごく感じている。エクササイズは、老人クラブ、婦人会、民生、公民館で地域ぐるみで協働してやっているが、ものすごく繋がりができたのは強い。その小さなエクササイズの会の中でも細かい問題があり、認知症のことや、ごみ出しの問題、ご近所トラブルみたいな話の相談もいろいろ受ける、それがある程度解決をしていくことが結構ある。サロン作りも教えてもらって作った。繋がりがっていうのは本当に、いろんな会ができるほどに、広がっていく。繋がりがっていうのはものすごくいいのではないかと思っている。

#### 【委員】

私たちのところは、地域の自治会長が、選出されてきても、逃げるばかりで、忙しいから、1人だから、そういうことばかりで、なかなか成り立っていない。この間も民生委員さんのなり手がいないということがあり、こういうことは、もう私たちがあまり努力してもしょうがないと思う。市の方から、もっとボランティアとしてお金の問題じゃなく、みんなのためにやりましょうと、そういう方向に、サポート

して教えてくれるとか、そういう教育をしてくれる場所を作ってくれたらいいんですけども。

とにかく私ら、今から何々の会を作るとかいうものがほとんどありません。昔だったら、自治会で、何々の会や催しがたくさんあって、私らも、みんな集まってくれて。する人は、やっぱり辛く、しんどいですが、やったかいがありました。しかし、今の若い人はそれを省略して、お金がかかる、時間ないとか、もうお年寄りばかりで、もう辞めましょうって、辞めていくばかりで、もう本当に市報月報を配るだけの仕事です。年寄りばかりで、去年も老人会の方がこれでもう終わります、と辞めていった状態。

これからはもう少し、全体に市が、みんなに知恵を教えてくださいたいと思う。今日ここでは教育とかの話をやっているけれど、あまりみんなに流れていないのかなと思う。そのへん、よろしくお願ひしたい。

#### 【委員】

本日皆様のご意見を聞かせていただきまして大変ためになった。私はこの計画の枝葉にあたる、健康わかやま21のほうで、携わらせていただいております、そこでも当然、医療・介護・福祉っていうのは密接に繋がっております、またそれぞれの協力も大変重要だと考えている。和歌山市も少子高齢化が進む中で、誰もが健やかで、そしてまだ心豊かに暮らせるまちづくりを目指して、和歌山市医師会としても取り組んでいきたいと思っているので、今後ともご協力いただければと思っている。ご意見等、またいただければ幸いです。

#### 【委員】

地域福祉の促進については、地区社協様に自治会にいろいろご指導いただき、地域の福祉の件については進んでおり、今後とも、よろしくお願ひしたい。

#### 【委員】

まず3点。1点は、和歌山市地域福祉計画と和歌山市社協が行っている地域福祉活動計画の連携をもう少ししっかりと、やっていきたい。行政さんのサポートをまずいただいて、私たちが活動いたします。そういうところをお願ひしたい。

そして2点目は、コミュニティスクールの推進ということですが、今有功東の小学校は子どもたちから、地域では何ができるか、僕たちは何ができる、私たちはどういうことをしたらいいかということ、今、積極的に考えてきてくださっている、私たちがそれに協力をしていく、という方向を進めている。これがどういう形でできてくるかの、今月の末に1つの形ができる予定というところが2点目。

そして3点目の、子ども食堂について。和歌山市、社協、予算の1つも上がっていないのはどういうことなのかちょっと疑問に思っている。その福祉のあり方、子どもたちの育てていくあり方をちょっと考えてもらいたい。それから認知症サポート講習会、毎年何校かは受けられているが、それを全小学校に進めていって、子どもたちから、認知症というのに取り組んではと思います。

以上、地域をつなげる、繋がっていく、これが福祉のまず基本だと思っておりますので、私たちが理解しながら、協力して、いろんな面で、福祉を少しでもよくしていきたいと思っている。行政の方たちにも、

社協の方へ、力をよろしく、伴走型をお願いしたいと思っている。よろしくをお願いしたい。

### 【委員】

私、和歌山県の女性部の部長もしていて、最近、和歌山市、県下いろいろ行かせてもらい地域の文化などの話や活動を聞いたりしている。いろいろな地域の催しというのは女性の参加率が高い。最近では、歩行ができなくなってきた、その会館にまで行けなくなってきたってということと、認知症が入ってきたってということで、活動が少なくなっているのが現状。認知症予防も、サポーター養成とかも大事ですが、まだはっきりわからない中で予防といっても、どれが効果があるとは言えないと思うが、やっぱり認知症予防をして、地域で暮らせるようにしていくってということが、今、3か所くらいの地域を周らせてもらっている中で、高齢化も含めての実際の課題だと思っている。

あと、子どもの件では、うちは特にいろいろなところで、子ども会活動をしているので、中学生・小学生高学年の子どもたちが、毎晩どこかで勉強会をしており、先生のOBや現役の先生が来て勉強の指導をしてもらい、活発な活動になっている。私は、子どもの学習・生活支援事業っていうところでは、こういう事業にはなっていないけれど、1つの会館で、80人来ていると言っていた。小学校高学年から中学生まで。中学3年生は別の部屋にして、みんなで勉強会をして、学校の先生OB含め、毎回4人ぐらいの先生がみしてくれてる。そういうところと同じようにできるのかはわからないが、9人という、県でそれだけなのか、市でそれだけなのかとは思いますが、いろいろなところで、子どものサポートをしているのかなと思う。

やはり福祉は、元気で楽しく地域で暮らせるのが一番の福祉じゃないかと思う。ここ最近、いろいろなところで、自分たちの文化、盆踊りあるよね、子どもたちにこんなこと、高齢者の人が教えるような機会作ってるよねって話を聞きながら、こういうことが地域が生き生きする福祉のまちだなというふうになっているところなんです。

### 【委員】

今、力を入れているのが子ども食堂です。最近自治会も、希薄化され、以前やっていた夏祭りとか、みんなで何かをしようと集まることがなくなってきた。それで、子どもさんと年配の方が集う居場所づくりに向け合わせて、子ども食堂を始めた。子ども食堂は1つの場所ではなく、おでん屋台を積んだ軽トラックで、自分の地域だけでなく、和歌山市全域の地域を周れるように、小学校、中学校の先生方にもお願いしたり、自治会長さんにもお願いしたり、ビラをまいて、アウトリーチ的に行っている。

実際に自分の足でその場所に行き、自分の目で見て、どういう地域で、どういう活動をしているのか勉強をさせていただいており、そこで学校や行政の方に言いにくいことも、子ども食堂のおっちゃんという感じで、相談してくれたりすることもある。不登校問題、ひきこもり、ヤングケアラーの問題を抱えた子どもさんや家庭は公共のところにはなかなか出てこないの、その家庭に連絡を取り、許可いただいた上で、訪問して食を提供します。食を提供するのは、公的な形ではないので、やはり食を通じてのコミュニケーションが成り立ったりする。そこで、いろんな相談事を受けたり、そういう話を聞けたりするので、今一番、力を入れている。

各地域に出向いたときに、地域の自治会長さん、各種団体の方、民生委員・児童委員の方にも、協力を

いただいて、運営している。またそういった形で、和歌山市内全域、周っていきたいと思っているので、今後ともよろしくお願ひしたい。

**【議長】**

質問が出た部分もありますので、担当課ないしは事務局の方からお願いできればと思います。

**【高齢者・地域福祉課長】**

高齢者、地域福祉課の事業としましては、バスカードなどの外出支援施策をしていますが、市内でも中心部と、郊外とではサービスのアクセスや、交通等のインフラに差があって、公共交通網が弱い・低い地域での移動手段の壁というのはあると思っています。当課の支援策という観点だけでなく、移動手段の確保については、市全体で、関係部局と協議する必要があると思っています。

次に、この計画自体が、高齢者、障害者、児童等の福祉各分野における、共通事項横断的な内容の上位計画と位置付けていますので、それぞれの対象となる方が、住み慣れた地域で、楽しく、生きがいを持って、そして社会と繋がりを保ちながら、安心して暮らし続けることができるよう、民生委員さんや、地区社協様、子ども会の活動など、それぞれ関係する機関と協力しながら、取り組みを進めていきたいと考えております。

**【地域包括支援課長】**

まず、認知症サポーター養成講座ですが、実は2年かけて、6年生対象に全小学校50校を、周るようにしており、地域包括支援センターの保健師が中心なって行っている。今後とも継続してやっていきたいと思っています。

また、認知症予防や、高齢化を、これから考えていかなければいけないということについて、その通りだと思います。住み慣れた地域で認知症があったとしても、暮らし続けていけるようにと私たち市としても目指しています。

人との繋がり、役割を持つというところで、地域包括支援課としては、体操を中心とした通いの場というのを推進しているところです。その他にも、認知症予防というところでは、まず、認知症かな、どうかなっていうところの初期の段階であれば、地域包括支援センターで、医師による相談支援をしたり、こういう状態のときはどこに相談したらいいかという、認知症あんしんガイドブックを作成していますので、そのあたりを参考にさせていただいたらと思います。

**【議長】**

いろいろな角度からのご意見をいただき、参考にさせていただけるかと思う。よろしくお願ひしたい。

議事すべて終了。以上で終了。

3 閉会